

A new locality of *Sparganium gramineum*
Georgi (Sparganiaceae) from Shinsen-numa
mire, Hokkaido

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/48543 |

山崎真実：北海道におけるウキミクリ（ミクリ科）の新産地

Mami Yamazaki: A new locality of *Sparganium gramineum* Georgi (Sparganiaceae) from Shinsen-numa mire, Hokkaido

2000年8月に北海道ニセコ山系神仙沼湿原において水生植物の調査を行った際、ウキミクリ *Sparganium gramineum* Georgi を確認したので報告する。

ウキミクリはユーラシア北部に広く分布し、日本周辺ではサハリンとカムチャツカから報告されている (Hultén and Fries 1986)。日本では高山に稀に産するとされ、花序または果序のついた標本を伴う産地として新潟県糸魚川市蓮華山白池 (大井 1951)、北海道雨竜沼湿原 (高橋・佐々木 1998) およびニセコ山系雷電山五ツ沼 (通称雷電山湿原) (高橋・佐々木 2002) の3地域が報告されている。また、富山県イブリ山、朝日岳小桜ヶ原、太郎兵衛平もウキミクリの産地とされているが (大田他 1983)、証拠標本が存在するのは小桜ヶ原のみである。富山市科学文化センター (TOYA) に保管されている小桜ヶ原産のウキミクリ標本 (TOYA Sp-2398) を検討した結果、ラベルにはウキミクリと書かれているが、沈水葉のみの個体であるためウキミクリと断定できない。そのため、ここでは上記富山県内3地点を産地とすることを避けた。同様の理由から、富山県の絶滅のおそれのある野生生物 (富山県生活環境部自然保護課 2002) においてウキミクリの産地とされている富山県朝日町東南部、大山町東南部も産地として扱わない。

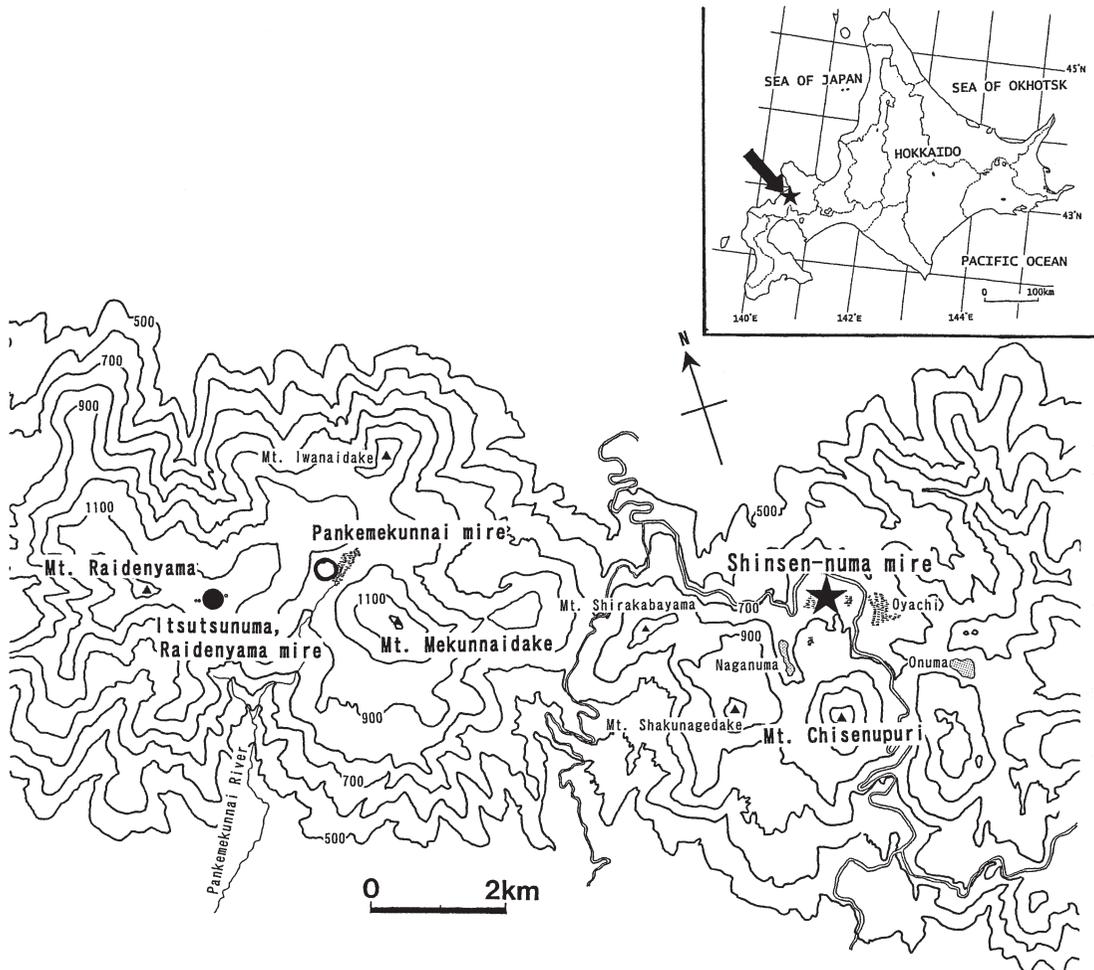


Fig. 1. Map showing the location of Shinsen-numa mire (★) and another two mire in the Niseko Mountains, Hokkaido. ● : Itsutsunuma, Raidenyama mire. ○ : Pankemekunnai mire.

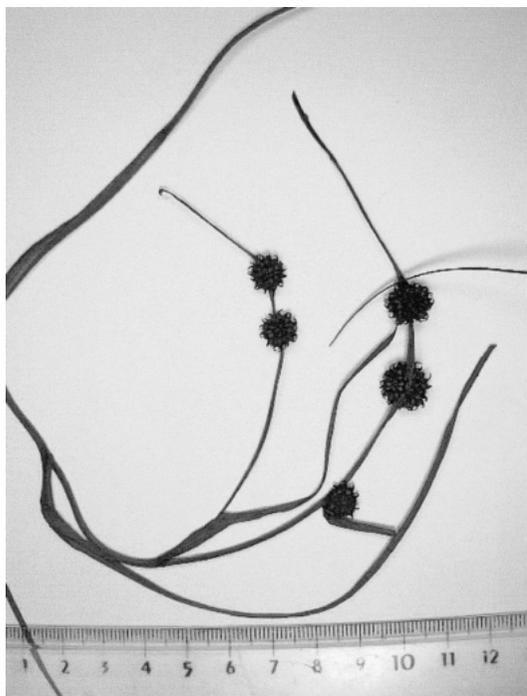


Fig. 2. *Sparganium gramineum* from Shinsen-numa mire, Hokkaido. M. Yamazaki 00257, Aug. 22, 2000; SAPS.

神仙沼湿原のフロラに関しては桑原 (1966, 1976) の報告があるが、ミクリ属植物は記録されていない。また、橘 (1998) は神仙沼湿原の水生植物群落構成種のなかに、*Sparganium* sp. を記載している。以上のことから本報告は日本で 4 例目、北海道で 3 例目の確実な産地報告となる。なお、上記新潟県の産地ではウキミクリは既に絶滅した可能性がある (伊藤 1991)。

神仙沼湿原は北海道ニセコ山系チセヌプリの北西、標高 770 m に位置し、溶岩台地上の凹地に形成された山地湿原である (Fig. 1)。湿原は高位泥炭地であり、神仙沼をはじめ 20 あまりの小池塘が点在している。また、北海道中部～南西部において稀にしかみられず、後志地方では神仙沼湿原にのみ生育するとされるネムロコウホネが分布する (桑原 1976; 橘 1998)。

今回確認したウキミクリの開花・結実個体 (M. Yamazaki 00257, SAPS; M. Yamazaki 00258, 札幌市博物館活動センター) は、小規模ながらも周囲が複雑に入り組んだ複合池塘内水深約 39 cm の場所に生育していた。これと隣接する複合池塘 (水深約 53 cm) およびネムロコウホネが生育する池塘 (水深約 50 cm) にも、開花には至らない浮葉のみをつけたミクリ属植物が認められた。しかし、ウキミクリとソソバウキミクリ *S. angustifolium* Michaux は同所的に出現することが知られており (高橋・佐々木 1998)、未開花個

体については両者の識別が困難なためウキミクリと断定できなかった。

今回確認したウキミクリの形態は、浮葉は長さ 90 cm まで、幅は 1.5~3 mm、背面の稜は発達せず、花茎は 70 cm までで花序は分枝し、雌性頭花は 2~3 個で互いに 1.5~3 cm 離れて着性、雄性頭花は最上の雌性頭花から 3~4 cm 離れ、1~6 個が近接して着く (Fig. 2)。果実はやや未熟なものも見られたが、卵形で長さ 2.5~3 mm、幅 1~3 mm である。

なお、神仙沼湿原と雷電山五ツ沼との中間付近標高 940~960 m に位置するパンケ目国内湿原 (Fig. 1) においても同時期に調査を行った。しかし、ミクリ属についてはタマミクリ *S. glomeratum* (Beurl. ex Laest.) Neuman のみを確認し、浮葉性ミクリ属植物は確認していない。

今後さらに各地での水生植物調査が進むにつれ、日本国内におけるウキミクリの産地が増えると思われるが、これまでの知見と本報告を考え合わせると、日本におけるウキミクリの分布は日本海沿岸多雪地帯の山地湿原を結ぶ地域にベルト状に分布していることが予想される。

今回の報告に関して注目すべき点は、雨竜沼湿原と神仙沼湿原の環境条件に類似点が多いことである。橘 (1997) では、寒候期降水量 850 mm、最深積雪 200 cm に達する北海道多雪地帯山地湿原の中に、ニセコ山地の湿原群と雨竜沼湿原がともに含まれている。さらに、北海道の山地湿原で最も特徴的な水生植物群落は、水深 1~2 m 以上の深い池塘に成立する浮葉性ミクリ属植物の群落であるとしている。今回神仙沼湿原では、ウキミクリの生育池塘の一部にフトヒルムシロ、ネムロコウホネ、ミツガシワが共存していることを確認した。一方、雨竜沼湿原のウキミクリ生育池塘は中央部最大水深が 150 cm に達し、不定形の河跡湖で、わずかにエゾベニヒツグサがみられる (佐々木 2002)。このように生育水深に幅はあるものの、いずれの湿原でも生育池塘は不定形で、他の浮葉植物が共存するがわずかであり、開水面が十分に確保されているという共通点が見られた。このことから、生育地が限定される要因として、気候条件だけでなく池塘の形状や水深、共存種とその植被率など池塘単位での生育環境要素も関係すると思われ、今後の興味深い課題である。

本調査は 1999 年~2000 年度に北海道環境生活部によって行われた高山植物データベース作成業務の一環として行われたものである。調査の便宜を図ってくださった三木 昇氏、本報告をまとめるにあたりご指導・ご助言いただきました北海道大学総合博物館高橋英樹教授、神戸大学角野康郎教授、標本庫閲覧の際お世話に

なりました北海道大学植物園籾内恵子技官，倶知安風土館岡崎克則学芸員，富山市科学文化センター太田道入学芸員，富山県中央植物園中田政司研究員，金沢大学小藤累美子助手および黒田直美氏，調査に同行して下さった方々に深く感謝申し上げる。

引用文献

- Hultén, E. and Fries, M. 1986. Atlas of north European vascular plants, vol. I. p. 190. Koeltz Scientific Books, Königstein.
- 伊藤 至. 1991. 新潟県の水草 (I) ミクリ科. 長岡市立科学博物館研究報告 (26): 25-34.
- 桑原義晴. 1966. 後志の植物—その生態—. pp. 46-72. 後志の植物刊行会, 倶知安.
- 桑原義晴. 1976. 神仙沼・大谷地湿原の植生. 北海道自然保護協会誌 (15): 46-50.
- 大井次三郎. 1951. 日本及びその附近よりの新しい植物 (1). 植物研究雑誌 26: 235.
- 大田 弘・小路登一・長井真隆. 1983. 富山県植物誌. p. 155. 廣文堂, 富山.
- 佐々木純一. 2002. 雨竜沼湿原の池塘地図. 辻井達一・橘 ヒサ子 (編). 財団法人前田一步園財団創立 20 周年記念論文集 北海道の湿原, pp. 189-203. 財団法人前田一步園財団, 阿寒.
- 橘 ヒサ子. 1997. 北海道の湿原植生概説. 北海道湿原研究グループ (編). 財団法人自然保護助成基金 1994 ・1995 年度研究助成報告書 北海道の湿原の変遷と現状の解析—湿原の保護を進めるために—, pp. 15-27. 財団法人自然保護助成金, 東京.
- 橘 ヒサ子. 1998. ニセコ山地神仙沼湿原の植生. 北海道教育大学大雪山自然教育研究施設研究報告 (32): 34-42.
- 高橋英樹・佐々木純一. 1998. 北海道雨竜沼湿原のミクリ属 3 種. 植物地理・分類研究 46: 211-212.
- 高橋英樹・佐々木純一. 2002. 雨竜沼湿原のフロラと絶滅危惧植物. 辻井達一・橘 ヒサ子 (編). 財団法人前田一步園財団創立 20 周年記念論文集 北海道の湿原, pp. 205-216. 財団法人前田一步園財団, 阿寒.
- 富山県生活環境部自然保護課 (編). 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま—. p. 281. 富山県生活環境部自然保護課, 富山.
- (〒060-0001 札幌市中央区北 1 条西 9 丁目 札幌市博物館活動センター Sapporo Museum Activity Center, N-1 W-9, Chuo-ku, Sapporo 060-0001, Japan)